

のアルバム

▼6月8日 祇王幼稚園



いよいよ夏がやってきた！

夏を感じられる梅雨の晴れ間の一日に、祇王幼稚園では水遊びが行われ、園庭に園児たちの笑い声が響きました。

水をかけ合いっこしたり、砂場に大きな水路をつくり小舟を浮かべたり、園庭のお花を使い色とりどりの「ジュース」を作ったりと、遊びの達人の園児たち。

新型コロナウイルス感染症対策のため、今年も市内公立保育所（園）、幼稚園、こども園ではプール開きが中止となりましたが、水を使ったさまざまな遊びを楽しみ、夏の始まりを感じることができました。

ふる 故きを温ねて新しきを知る

吉川自治会バスツアーが行われ、矢放神社（吉川）伝来の大般若経が展示されている歴史民俗博物館を訪問されました。

大般若経は、災いを払い、福をもたらすことを願って書き写されたお経です。同社の大般若経は、平安時代から鎌倉時代にかけて作られました。

「温故知新。地元の人でも知らないことがある。吉川の歴史を正しく知り、後世に伝えるために今回のツアーを計画した。」と話す会長の川尻順治さん。

当日は17人が参加され、皆さん熱心に見学されていました。



▼5月21日 歴史民俗博物館



いつでも「学び」を保障

市では、文部科学省の公立学校情報機器整備費補助金等を活用し、市内全ての小・中学校に1人1台のPC端末と校内高速大容量ネットワークを整備しました。

この取り組みは、災害や感染症などの発生により学校が臨時休業となった場合においても子どもたちの「学び」を保障するためです。

今後は、新学習指導要領に併せたデジタル教科書などの活用促進やICT（情報通信技術）を使い、学習活動の充実を進めていく予定です。



▲PC端末を活用した授業風景

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(202)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

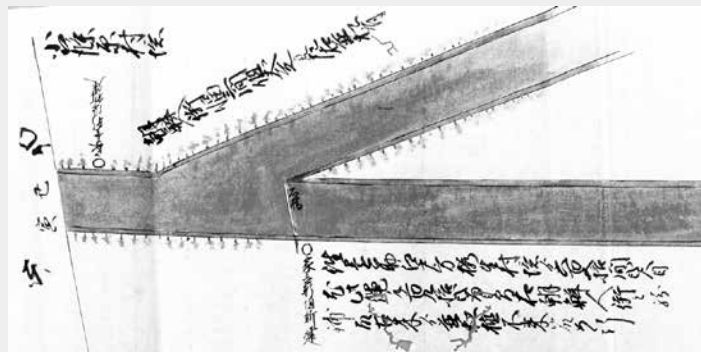
ちょうせんじんかいどう 朝鮮人街道からみえるもの

現在、私たちが何気なく通る朝鮮人街道（市道小篠原稲辻線・久野部小南線などがつながる道）は、江戸時代に朝鮮通信使（朝鮮国の外交使節団）が通ったことからその名で呼ばれます。古くは下街道や浜街道と呼ばれ、野洲に残る史料には八幡海道とも記されます。7月17日（土）から始まる展覧会「朝鮮人街道をたどる—絵図からみた街並みの変貌—」では、古絵図と現代の街並みを比較し、街道や街並みの移り変わりを紹介します。

野洲市小篠原の地先には、朝鮮人街道と中山道の分岐点があります。写真（下）は寛政13（1801）年に描かれた絵図で、真横に伸びる道が中山道、右上に伸びる道が朝鮮人街道です。朝鮮人街道の道幅が3間（約5.5m）とあり、両脇には緑色で松並木が描かれます。道を間違える人が多いためか、中山道側はここより192間（約350m）は古くから何も植えていないと一文が添えられています。朝鮮人街道沿いは祇王井（川）も流れることから、松並木とともに街道を見分ける目印になったことなのでしょう。

かつての朝鮮人街道の道筋は、田地を縦断しており、野洲では、途中の富波沢村（富波乙）、富波新町村（富波甲）、永原村（上町、下町）、小南村のみ、街道筋を中心に家々が建ち並んでいました。その当時、分岐点に立って朝鮮人街道を眺めると、祇王井がうるおす田地が広がり、松の緑が美しく映ったことでしょう。現在、街道はアスファルトで覆われ、空には電線が横切ります。また、分岐点から下町あたりまでほぼ途切れることなく家屋が続き、かつての景色と大きく変わりました。ぜひ展覧会で朝鮮人街道筋の変貌をご覧くださいと思います。

（市史専門調査員 江藤 弥生）



「小篠原村往還絵図（一部）」（苗村家文書）

■郷土史展「朝鮮人街道をたどる—絵図からみた街並みの変貌—」

7月17日(土)～10月3日(日)

※7月の休館日：月曜日

※市民は入館無料（運転免許証やげんきカードなどをご提示ください。）

※市ホームページ等で事前に開館状況をご確認の上、ご来館ください。



生きものをはぐくむ農業体験！

須原魚のゆりかご水田協議会主催の田植え体験が行われ、約90人が参加されました。

魚のゆりかご水田とは、琵琶湖から産卵のために上がってきた魚が、田んぼと水路の間の落差をこえて、田んぼに入れるよう工夫された田んぼのことです。

参加した子どもたちは、ぬかるんだ泥の感触に大盛り上がり。一列になり苗が一定の間隔となるよう目印を確認しながら手作業で植えていきました。

9月の収穫が楽しみです♪

▼5月15日 須原

